



さんびょうだより



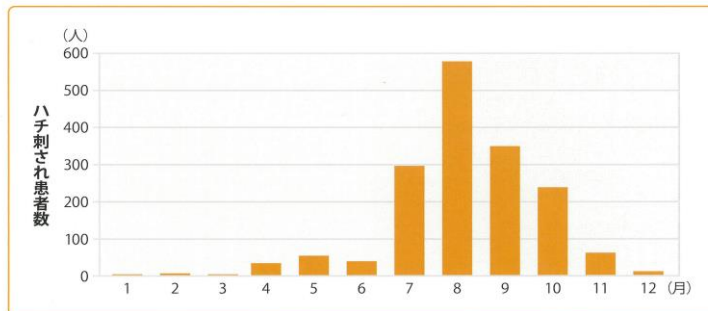
痛ったああい！ 蜂刺され！！

○蜂刺されについて

蜂の被害は夏から秋にかけて多く、蜂刺されによる患者数が増えています。

特に蜂毒によるアナフィラキシーショックは発症してから10～15分程度と短いため、治療が間に合わず毎年20人程度の方が命を落としています。

●ハチ刺され患者数の月別推移



安藤 幸雄：「ハチ刺傷患者の治療について」蜂刺されの予防と治療
林野庁管理課部厚生課監修/国有林野事業安全管理研究会編集、林業業防協会：174, 1996

○蜂に刺されたら、まずは症状を確認

《局所症状》

刺された周囲だけに現れる症状をいいます。

応急処置として

- ① 蜂の針を抜く（毒袋には毒が入っているため手で掴んで抜かないようにする）
- ② 毒を絞り出し、流水で洗い流す
（蜂毒はタンパク質でできており水に溶けやすいので大量の水で洗い流すのが効果的）
- ③ 虫刺され用の薬を塗る（かゆみがひどい場合は、抗ヒスタミン軟膏を塗ると効果的）
- ④ 冷やす（血管を収縮させ毒を吸収しにくくする）
上記処置を行った後でも、**早急に医療機関を受診することが大切です。**

《全身症状》

全身に現れる症状をいいます。

具体例として

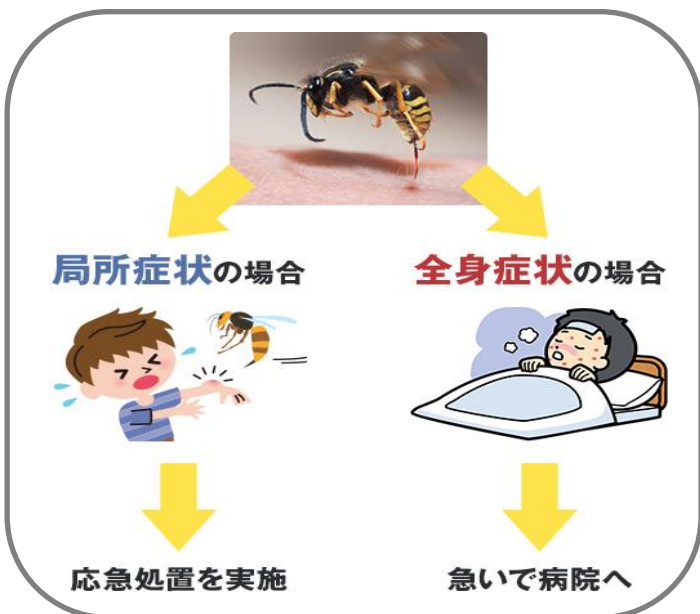
- ◎軽い症状⇒吐き気、発汗、めまい、ふるえ
- ◎中程度の症状⇒息苦しさ、喉のしびれ・湯き、吐き気、頭痛、嘔吐、めまい
- ◎重い症状（アナフィラキシーショック）
⇒全身のじんましん、血圧降下、呼吸困難、意識障害、激しい動悸

○刺されて15分以内で全身症状を感じる場合には、すぐに受診してください。（その際は、ご自分で車の運転をすることは避けてください。）

○特に重い症状の場合には救急車を呼んでください。

○自己注射薬キットをお持ちの方は注射し、救急車を呼び安静にして待ちます。

自己注射薬キット：症状を一時的に緩和させる注射薬。
※この注射薬は、医師の診察が必要となります。
詳しくは医師または看護師へご相談ください。



★蜂に刺されないためには・・・

- ・ 蜂の巣に近づかない
- ・ 服装は白を基調としたピッタリしたものを着る
（黒い服や花柄、ヒラヒラした服は避ける）
- ・ 匂いのキツイ香水、化粧品や整髪剤をつけない
- ・ 蜂の動きが活発な秋口には特に警戒する

